

# 西新井税務署長賞

## 「曾祖父の車椅子」

足立区立 第四中学校

一年 遠藤 優空

私には、近所に九十歳を超える曾祖父母と六十歳代の祖母がいる。曾祖父母に小さい頃積み木などで遊んでもらった記憶がある。今はコミュニケーションが取りにくくなっている。そんな二人を同居している祖父母が家で介護している。

祖父母はいつも「日本は福祉が充実しているから家でも介護できる」と言っている。福祉の意味が知りたかったから、「福祉が充実しているとはどういう意味」と聞くと「補助があるおかげで少ない負担で介護用品や介護施設を利用できる」と教えてくれた。そういえば、祖父母の家を見渡すと家じゅう手すりだらけ、風呂場には介護椅子、寝室には電動ベットがある。

あと、相談員さんが月一回家に様子を見に来てくれるそうだし、日帰りや短い期間、介護施設を利用できる制度もあるそうだし。

春に、私も含め親せきで旅行に行くことになった。初め、曾祖父母は行けないと言っていたが、みんなで助けるからと、行くことになった。曾祖父は車以外は車椅子で移動し、曾祖母はシルバーカーで移動して、無事に旅行することができた。車椅子とシルバーカーは少ない負担でレンタルしてもらっている

そうだ。「本当に楽しかったありがとう」とみんなにお礼を言っていた。

福祉には、主に消費税という税金が使われていると聞いた。調べたら、消費税のうち約九割は年金・医療・介護・子育てなどの社会保障に使われているそうだ。消費税は買い物をした時に払う税金なので、中学生でも負担しているそうだ。私も少しは曾祖父母のためになつていと思う。昔は、税金のこともなんて考えていないし、税金があつて何になるんだと思つていた。しかし、税金は色々な人を助けていたと知つた。例えば、さっきの話にある車椅子とシルバーカー、それらは少ない負担でレンタルしてもらつてること、ほかに、住宅の事例で、段差をなくす、スロープを設置する、引き戸にする、点灯や消灯がしやすい照明を設置するなど税金が役にたっているそうだ。お菓子が普通より少し高いことを嫌がらないようにしようと思つた。将来私がおじいちゃんになつた時に、税金に助けられる気がしたからだ。税理士さんの大変さも考えようと思つた。これからは、税金から目を背けないで目を向けて生きていこう。